

変化する社会に向けて私たちは今、何をどのように学ぶのか

Society 5.0 に向けたこれからの教育のあり方の検討が進められている。

今後、高校で学ぶ生徒たちは、変化の激しい社会を生き抜くために、何をどのように学ぶべきなのか。

中央教育審議会「新しい時代の高等学校教育の在り方ワーキンググループ」のメンバーでもある

岡山県立和気閑谷高校の香山真一校長が生徒たちと語り合った。

Society 5.0 で実現する社会

これまでの社会

地域の課題や高齢者のニーズなどに十分対応できない

これからの社会

イノベーションにより、様々なニーズに対応できる社会



これまでの社会

年齢や障がいなどによる、労働や行動範囲の制約

これからの社会

ロボットや自動走行車などの技術で、人の可能性が広がる社会



岡山県立和気閑谷高校 校長
香山真一
こうやま・しんいち
教職歴 38 年。
同校に赴任して 7 年目。



岡山県立和気閑谷高校 2 年生
妹尾駿一 せのお・しゅんいち



岡山県立和気閑谷高校 2 年生
太田美羽 おおた・みわ



岡山県立和気閑谷高校 1 年生
井上健太 いのうえ・けんた



岡山県立和気閑谷高校 1 年生
恵美まりん えみ・まりん

岡山県立和気閑谷高校

◎ 1670 年、岡山藩主・池田光政が開校した閑谷学校をルーツとし、日本で最も長い歴史と伝統を誇る。探究学習として「閑谷学（しずたにがく）」を実施し、生徒はフィールドワークを通して地域の活性化に取り組む。2019 年より文部科学省の地域協働推進校（地域魅力化型）の指定を受ける。

◎ 設立 1670（寛文 10）年
◎ 形態 全日制／普通科、キャリア探求科／共学
◎ 生徒数 1 学年約 120 人
◎ 2019 年度進路実績（現役のみ） 4 年制大学は、尾道市立大、大阪商業大、くらしき作陽大、就美大、ノートルダム清心女子大、広島修道大などに 22 人が進学。短大、専門学校進学 52 人。就職 35 人。
◎ URL <http://www.wakesizu.okayama-c.ed.jp/>

AI にはできなくて、人間だからできることは？

香山 AI などの先端技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れる Society 5.0 と呼ばれる社会について、どのようなイメージを持っていますか。

妹尾 農作業が楽になったり、遠隔医療が普及したりと、便利になることはたくさんありそうですが、機械に任せて大丈夫かなと不安な部分もあります。ただ、朝起きて冷蔵庫に話しかけたら、自分の体調などに関するデータを基に、お勧めの朝食メニューを提案してくれるような未来の生活には、やはりワクワクします。

恵美 以前、母が、「私が 20 代の頃の携帯電話は、肩にかけて持ち歩くくらい大きかったのよ」と教えてくれました。でも、今は薄く小型化していますよね。この先さらにどんなふうに進化するのか楽しみです！

井上 でも、いろいろな仕事を AI などが行うようになった時、自分の役割を見つけれられる人と、見つけれない人に分かれてしまうのではないかと気がします。

妹尾 独創的な発想をしたり、様々



探究学習「閑谷学」の成果を発表する生徒。答えが1つとは限らないテーマについて考え、自分の考えを語ることで未来をつくるために必要な力が育まれる。

な考えを組み合わせたたりして、自分の考えをつくることは、AIではできないことだと思おうので、そうしたことが求められる職業はこの先も残っていくと思います。僕が残ると思うだなどと思う職業は、身近なところでは教師です。和気閑谷高校の先生たちは、生徒の能力や個性に合わせて教えてくれたりしています。それは、AIにはできない仕事だと思います。

太田 保育士や幼稚園の先生の仕事もAIには奪われない気がします。子どもは、時に大人が想像もしない行動をします。そういった想定外な状況に柔軟に対応することが求められる仕事は、人間にしかできないと

*内閣府「Society 5.0『科学技術イノベーションが拓く新たな社会』説明資料」を基に編集部が作成。

これまでの社会 知識・情報の共有、連携が不十分

これからの社会

IoTですべての人とモノがつながり、新たな価値が生まれる社会



これまでの社会 必要な情報の探索・分析が負担
リテラシー（活用能力）が必要

これからの社会

AIにより、必要な情報が必要な時に提供される社会



対話し、認め合う力を 高校の授業で育む

妹尾 「AIに仕事を奪われてしまう」と心配するばかりではなく、人間だからこそのできる仕事って何だろうと考えられる人になりたいです。

香山 Society 5.0の到来を考えた時、私は、これまで以上に学校に「対話の時間」を増やし、人間らしい学びをつくっていくことが大切だと思います。特に、教師と生徒、生徒同士が「あなたはここをよく頑張ったね」と語り合い、認め合う時間

です。AIは、何に、どれだけ取り組んだのかは評価できませんが、どんな思いで、どのような工夫、挑戦をしたのかは、人間にしか評価できません。本校の三者面談では、生徒がタブレット端末を使って、自分の成長を担任、保護者にプレゼンテーションしますが、それも対話し、認め合う力を育む時間なのです。

井上 先生や家族の前で自分の考えを述べることで、自分を深く理解できるようになった気がします。プレゼンテーションの経験も、将来仕事できっと役立ちますよね。

太田 タブレット端末は、授業で調べものをする時や、探究学習「閑谷

学」での成果を学校のブログなどで公開する時にとっても役立ちます。そうした先端技術を活用する力ももっと高めていきたいです。

恵美 自分の考えを自分なりの言葉にすること、それを先端技術などを使って多くの人に効果的に伝えること、その両方がこれからは大切なのだと思います。

妹尾 学校は、いろいろな人と接することで、自分の人間性や社会性を磨く場だと思います。だから授業でも、僕は教科書の内容だけでなく、教科書の内容を通してさらにほかのことを学んでいる気がします。

香山 先生たちとは、「教科書の内容を教えるだけでなく、生徒が社会や人間について考えるような授業にしましょう」とよく話をしています。それは、皆さん一人ひとりが自分なりの課題を発見して、よりよい社会をつくっていくこうとする探究的な人

になってほしいからです。いくら先端技術が進歩しても、誰もが「自分は幸せだ」と心から思える未来を描き、つくることは、私たち人間にしかできません。学校では、皆に未来をつくる力を育む教育を行っているんですよ。